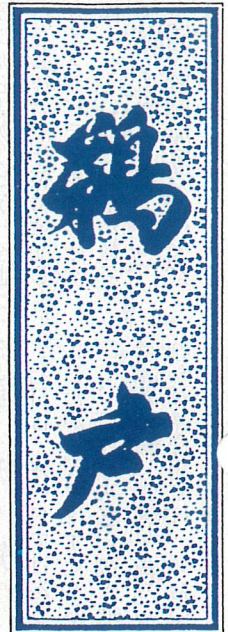




復活された駒による御供上げ



発行者兼編集者
 鶺鴒 戸 神 宮
 社 務 所
 印刷所
 西 日 本 印 刷

当神宮も第二回のシャンシャン馬道中唄全国大会に四百人余の出演者を迎え、決勝大会も毀賑を極めました。
 又、シャンシャン馬道中の再現も第二回目にして全国より新婚者多数の申込者の中より、抽選により五組を選出するの参拝、正装をこらした花嫁の馬上の姿も麗わしく、シャンシャンと馬の懸鈴の音軽やかに、花婿は手綱とりつゝ、楽しみに鶺鴒の宮居に初詣り、新婚夫婦の晴れの姿に道行く人々しばし悄然と凝視して、やがて喚声をあげる等、或いは稽古照今（古きを尋ねて今に再現）により駒による御供上げ（御米を奉納する）行事も復活される等、参拝者、賽客も激増してまいりました。
 之も偏に氏子崇敬者の方々の御協力の賜ものと感謝致しておる次第で御座います。
 職員一同も協力一致精進致し、神宮の発展と御神徳の高揚に努めたく所存でありますので、今一層の御力添賜あります様御願ひ申し上げます。
 尚、皆様方の益々の御多幸を祈念致し御挨拶と致します。



ごあいさつ

宮司 佐師朝規

暑中御見舞申し上げます。
 暑さ殊に酷しき折から御自愛の程祈り上げます。

捧げ、九月二十五日には宮中に参内して御見舞の御記帳をなし、十月二十一日には特別御祈禱の御神符を御届け致しました。
 幸にして陛下には御病氣も快復され国事にも御執務遊され、又、新春恒例の一般参賀をはじめ、近くは五月十九日、陛下主催の春の園遊会に赤坂御園にて関係者千九百人にマイクを通して挨拶される等、御元氣な御声、又、御尊影を拝する等、一億余の国民と共に誠に慶びに堪えない次第であります。

天皇陛下におかれましては、昨秋御健康を損なわれました由承り、早速御病氣平癒の祈願祭を齋行致し、引続き毎朝平癒の御祈禱を

例祭齋行と奉祝行事

去る、二月一日午前十一時より、当神宮例大祭が厳粛かつ盛大に斎行された。当日は、絶好の晴天に恵まれ春の日さしを感じるものと、献幣使黒岩龍彦氏（黒岩神社庁々長）が参向し、責任役員、氏子、崇敬者総代、五神宮（英彦山、鹿兒島、霧島、宮崎）各神宮宮司、県内外多数の神社宮司、県議会議員、日南市、北郷町、南郷町各地区々長、官公庁関係、敬神婦人会、全国各地崇敬者等多数の参列を賜った。

式典には、武勇的舞樂、蘭陵王、が神宮の神職によって奉納された。宮崎県では舞樂が奉納されるのは、当神宮だけという事で例大祭の舞を見物しようと各地から参拝者が年毎に増加しカメラ、ビデオを持参で参拝するといった光景が数多く見られた。

儀式殿前広場では例大祭奉祝行事として、第十七回

鶴戸神宮奉納四半的弓道大会が開催され、県内外から八十三チーム、四〇六名が参加し白熱した試合が展開され各所で息詰まる熱戦が繰り広げられ、参拝者も多数見物し、歓声が連日峰に木霊した。

そして、二月七日の日曜日には、第三十六回剣法発祥鶴戸山顕彰剣道大会が当神宮神苑で開催された。当神宮は剣法発祥の聖地であり、縁起によれば、足利時代の前後期に相馬四郎義元（後に僧となり慈音と号す）、及び愛州移香斎という人が当宮御霊窟内に参籠祈請し、夫々神示を得て奥儀を悟り、念流及び陰流を創始したと伝えられている。

当日は、寒い日ではありましたが、天気はすこぶる良く、二月の寒風を吹き飛ばすかの様に神苑に設けられた試合会場では、気合の入った熱戦が展開された。

当日は、寒い日ではありましたが、天気はすこぶる良く、二月の寒風を吹き飛ばすかの様に神苑に設けられた試合会場では、気合の入った熱戦が展開された。

小・中・高・一般とに分かれ、一四五チーム、一五〇〇人の選手が技を競い合い観衆数は三千余人が詰掛け熱心に試合を観戦した。四半的大会、剣道大会の成績は次の通りである。

- 【四半的大会】
- ▽一般①田野梅北②穂北③国富
 - ▽高齡①高千穂②三財③中郷
 - ▽個人
 - ▽一般男子①金丸有男（服部）②田中尚道（田野）③長友英之（鶴戸）
 - ▽高齡男子①安井秀義（田野）②堅田俊文（穂北）③本田殿（串間）
 - ▽一般女子①馬場セツミ（中郷）②飯谷マサミ（小郷）③中山ナラヲ（中郷）
 - ▽高齡女子①吉川ハルエ（沖水）②矢野ツネ子（高鍋）③森阿弥子（高鍋）
- 【剣道大会】
- ▽男子団体
 - ▽一般①県警機動隊②修養館③宮崎市消防局
 - ▽高校①高千穂高校②宮崎日大高校③宮崎中央高校④宮崎北高校
 - ▽中学①神武館②洗心館③高千穂尚武館④北辰館
 - ▽小学①延岡至誠館②神武館③大武館④思誠館
 - ▽女子個人
 - ▽一般・高校①宮脇淳子（高鍋高）②後藤康代（同）③林絹代（高千穂高）④坂本小裕理（同）
 - ▽中学①安元恵美（旭中）②竹田美穂（祝吉中）③加治屋真利（鏡）④岡崎由美（通山少剣）
 - ▽小学①甲斐真琴（至誠館）②前畑彰子（上長飯）③外山留美（思誠館）④甲斐敦子（高千穂尚武館）



献幣使 黒岩神社庁長 祭詞奏上

- ▽中学①安元恵美（旭中）②竹田美穂（祝吉中）③加治屋真利（鏡）④岡崎由美（通山少剣）
- ▽小学①甲斐真琴（至誠館）②前畑彰子（上長飯）③外山留美（思誠館）④甲斐敦子（高千穂尚武館）

剣道大会に参加して

日南振徳高校 日高和寿

私たち振徳高等学校剣道部は、二年五名、一年二名の寂しい部です。練習といっても、一日に、一時間するかないかでした。その剣道部が先生から、鶴戸山大会に出場するという知らせを受けてからは、人が変わったように、一日一日の練習に磨きがかかり、技の切れも、それまでは信じられないようなものとなりました。そうして試合が近づくと、みんなの調子も上がってきたというのに思わぬアクシデントが待っていました。それは中堅の村上さんが風邪でダウンしてしまったのです。盛り上がったいた気分も一瞬、沈んでしまいました。しかし剣道部持ち前の明るさで少しづつ気分を盛り上げて、鶴戸山大会にのぞみました。会場について、まず思っ



白熱した試合を展開

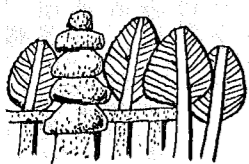
た事は、こんなにすばらしい風景の中で、試合が出来るのだろうかということでした。私たちはあまりにも感動してしまい、つい六時間前から、着がえてしまいました。しかし、会場から見

巖かに

先賢慰霊祭

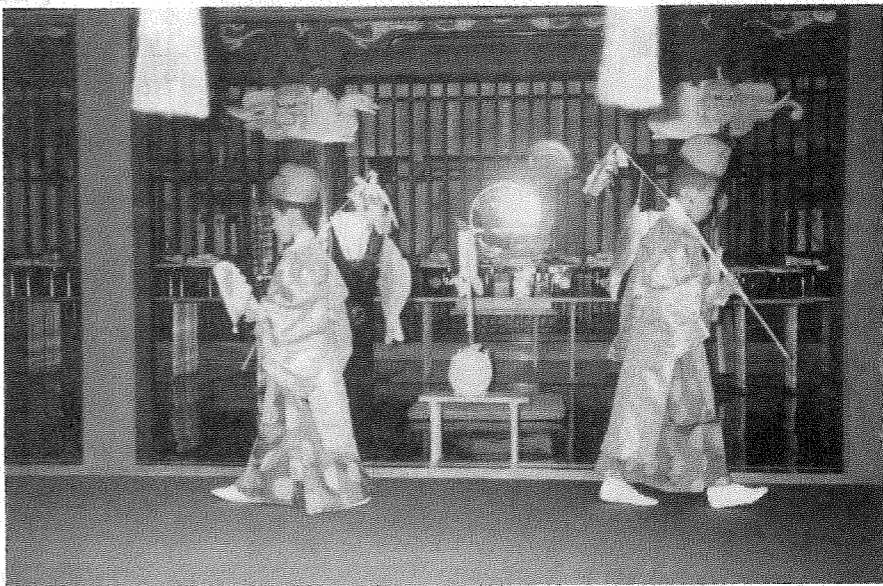
去る五月十九日、爽やかな五月晴れの中、別当宮司先賢慰霊祭が、新緑の杉並木が広がる鶴戸山別当墓地に於いて、歴代別当宮司遺族、責任役員、氏子総代をはじめ多数の参列者の中、しめやかに斎行された。

同祭は、当神宮特殊神事の一つに数えられ、古例により現在も神仏合同慰霊祭として執り行われている。宮司の祝詞奉上的後、潮満寺住職伊勢木俊真氏、外僧侶二名が経を奏した後、御詠歌などの法要が行なわれた。



新嘗祭

殿所地区、平山地区、甲東地区、乙東地区、大浦地区、松永地区、宮崎市押川真須子、
◎献備品奉納者
小玉酒造、井上酒造、門下



こどもかぐら奉納

酒造、松乃露酒造、京屋酒造、桜乃峰酒造、谷口酒造、古澤酒造、寿海酒造、松露酒造、津田商店、フンドーキン醬油、鶴戸水産、松浦剛士、古藤キッ店、徳永前統、徳永靖夫、延愛子、持永和見、吉田繁光、大山健三、伊藤安雄、とらや、松家、キネヤ、サンキュー堂、福田菓子舗、竹井、竹の屋、とおるや、鶴戸駐在所、鉄肥宮林署、鶴戸小学校、鶴戸中学校、潮小学校、だいきち、堀之内久男、上杉光弘、浜元寛

◎初穂料奉納者
吹毛井地区、小吹毛井地区、鶴戸郵便局、鶴戸神宮敬神婦人会、日南郵便局、春日地区、入山善賢、川田商店、伊比井駐在所、西田友助、伊藤安雄、品村宗利
◎こどもかぐら奉納者
(柳の舞) 佐藤由佳、(献穀の舞) 斎藤明暉、高崎絵央、(えびすの舞) 外山善啓、関屋勝光、(鈴の舞) 泉里佳、森圭子
(順不同)

日本のあるべき姿とは

権祿宜 中 武 信 明

昨年の八月十五日の夕方の事です。どこから入って来たのか、「スイッチョ」。「スイッチョ」と馬追虫が家の中で鳴き始めました。すると、妻が「家にも先祖様が来られたのかな」と一言。私には何の事か分かりませんでしたが、聞いてみると、妻の故郷ではこの虫が先祖様を連れて来ると言われているそうです。こちらでは丁度盆の期間にあたり、不思議な事にこの虫が

鳴いたのを聞いたのはこの時だけでした。
思えば、子供の頃親から盆の頃飛ぶ蜻蛉は、取ってはいけないと聞かされたものです。(名前はよく分かりませんが赤蜻蛉の一種だと思います。私等はこの蜻蛉の事を盆蜻蛉、精霊蜻蛉と言っていました。)何故かと言うと、この蜻蛉には先祖様(精霊)が乗って来られ、取ると先祖様が家には来られないと言われて

いたからです。私の郷では八月十三日の夕方墓から家まで迎火を焚いて先祖様を迎へ、八月十六日の早朝、今度は家から墓まで送火を焚きます。このような民間信仰が日本各地にどの位根づいているんだろう、と考へると夢とロマンに掻き立てられてしまいます。
しかし、現実はどうでしょうか。私等の先祖が築いてきた伝統が、一部の人等により崩し崩しにされつつあるのは、実に哀しい事だと思えます。「大阪の箕面忠魂碑訴訟」「岩手県靖国神社公式参拝決議訴訟」等多くの日本の文化伝統が闇雲に問題化され裁判に持ち込まれています。しかし、この二つの訴訟は私等の心の中に朝日を射し込ませたのではないのでしょうか。それは、先の大坂高裁、盛岡地裁の「合憲」という良識的な司法判断が下されたからです。これから先も楽観視は出来ないと思えますがここにきて漸く津地鎮祭訴訟高裁判決が定着してきたのではないかと思えます。しかし、こんな事では喜んではいられません。前中

曾根総理大臣の行なった靖国神社公式参拝に対し外国からも反論が出て、二回目の公式参拝が行なわれなかった事です。国の為に殉職した英霊を祀る靖国神社へ総理大臣として参拝するのは、何故人の顔色を窺う必要があるのでしょうか。草津珍彦氏著「国家神道とは何だったのか」の中に、戦争で無事生還するのを願うのは人間当り前の事で、それが叶えられず、やむなく非命にたおれた時にその死を悲しんで靖国神社へ祭ったのである。靖国神社の祭りの心は「生還」を切望していたけれども、やむなく戦死した、その結果を悲しんで行なわれる祭りである。決して戦死させる目的で祭りが行なわれていたのではない、という事が書かれてあります。私も正にその通りだと思えます。この事を理解していれば、靖国神社への公式参拝が軍事化へつながるといった考えは決して起らないと思えます。私は、以前広島県江田島にある海上自衛隊第一術科学校に行く機会に恵まれました。その中で一番心を打

たれたのが二十歳前後の前途洋々の青年等の遺書でした。彼等は神風特別攻撃隊と呼ばれ、お国の為にと散っていったのです。「神風特別攻撃隊」この言葉の響きの中に私は低頭せずにはいられません。私も御多分にもれず戦後生まれですが、遺書を読んでいると目に熱いものが込み上げてきて仕方ありませんでした。悲観した文章は一つもなく、彼らがどのような気持ちで出撃して行ったのかがよく判りとても良い勉強になったと思えます。公式参拝に反対の方々にも読んで頂きたい気持ちです。
一部の声に踊らされてはならないと思えます。静かに見つめ直して下さい。そして、本来の日本の姿になるよう努めて行くではありませんか。

新職員紹介

出仕 瀧田 賢二



生年月日 昭和四十二年八月二十三日
最終学歴 国学院大学別科神道専修Ⅱ類
趣味 音楽鑑賞、スポーツ
常の信条 忍耐

巫子 井上 和子

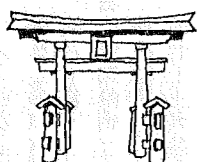


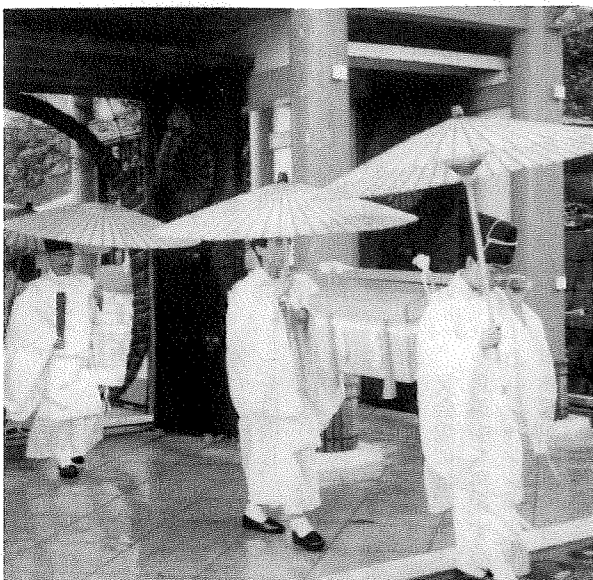
生年月日 昭和四十五年三月三十日
最終学歴 日南高等学校
趣味 音楽鑑賞、カラオケで歌うこと
常の信条 七転八起

巫子 藤浦智恵子



生年月日 昭和四十五年三月十八日
最終学歴 日南振徳商業高等学校
趣味 音楽鑑賞
常の信条 努力





夏越の大祓、茅輪、神事

- 四月十二日 下関市住吉神社 社宮司堀熊氏他四十名参拝
- 四月十五日 宮崎県警本部 長石尾登氏参拝
- 四月十五日 高橋良則責任役員、本社本庁にて表彰のため 出向
- 四月十八日、十九日 五神宮司司会(都井岬)
- 四月二十日 祐徳稲荷神社 藤川氏他二十三名参拝
- 四月二十三日 南那珂神職
- 四月二十五日 總會 責任役員会
- 四月二十七日 祐徳稲荷神社 社香田氏他二十名参拝
- 四月二十九日 天長祭
- 四月三十日 氏子、崇敬者 総代会
- 五月五日 節句、御衣祭、奉納行事いさみ 太鼓奉納
- 五月九日、十日 九州連合 總會出席のため 宮司職員宮崎市へ出向
- 六月三十日 大祓式

社務日誌抄

- 七月十七日 東京都足立支部神職十三名参拝
- 七月十八日 敬神婦人会 会、富澤会長他五十名、宮崎交通副社長岩切達郎氏参拝
- 八月十八日 鹿児島県神社庁同地方研修所 主催雅楽講習会のため宮司、職員出向
- 八月二十三日 鹿児島新田神社宮司代務者 種子田敬氏他五名参拝
- 八月二十六日 神青九州地区協議会野球大会開催(宮崎)
- 九月六日 外務省、科学技術審査官遠藤哲也氏参拝
- 九月二十六日 天皇陛下御病氣御見舞のため宮内庁へ宮司出向
- 十月六日、八日 伊勢神宮 崇敬会参与同評議員会のため宮司出向
- 十月十日 秋葉山本宮、秋葉神社宮司河村豊氏夫妻参拝、宮崎八幡宮例祭 献幣使として宮司参向
- 十月二十三日 長崎県龜山八幡宮権宮司河原忠孝氏他三名参拝
- 十一月三日 明治祭斎行
- 十一月十四日 責任役員会
- 十一月十七日 五神宮職員会のため宮司他職員鹿児島神社へ出向
- 十一月二十日 伊勢神宮神職研修所大西副所長他学生十一名参拝
- 十一月二十三日 新嘗祭斎行
- 十一月二十五日 ホエック ス(榎管原会長他ゴルフ場開設祈願)
- 十二月三十一日 大祓式、除夜祭
- 昭和六十三年 一月一日 歳旦祭
- 一月三日 元始祭
- 一月九日 日南市交通安全協会交通安全祈願祭会長河野氏他六十名
- 一月十二日 愛知県両社宮神社宮司上原氏他七十三名参拝
- 一月二十二日 九州別表神社宮司会(宮崎)へ宮司出向
- 一月二十三日 藤崎八幡宮 宮司岩下忠佳氏 志賀海神社宮司 阿雲磯和氏参拝
- 一月二十八日 愛知県白鳥神社宮司加藤碩仙氏他百名参拝
- 一月二十九日 霧島東神社 宮司黒木氏参拝
- 二月一日 例祭斎行、第七回奉納四半の大会開催
- 二月二日 吾平山上御陵祭 斎行(同御陵にて)
- 二月三日 NHK、ひるのプレゼント当宮にて生中継
- 二月七日 第三十六回剣法 発祥鶴戸山顕彰 剣道大会開催
- 二月十一日 紀元祭
- 二月十三日 広島東洋カープ阿南監督他四
- 二月十七日 名祈願参拝 祈年祭
- 二月二十三日 桃山御陵副所長他二名参拝
- 二月二十六日 長崎県藤護神社宮司他十三名参拝
- 三月三日 京都府松尾大社 彌宜文室氏他十一名参拝
- 三月四日 淨階授与のため 本庁へ宮司出向
- 三月八日 京都府松尾大社 権宮司佐古氏他十一名参拝
- 三月九日 鹿児島県月読神社宮司国生護義氏参拝
- 三月十日、十一日 一日神 本社庁開催出席のため宮司、職員熊本県神社庁へ出向
- 三月十一日 工学博士西氏 航空宇宙技術研究所、工学博士 高原氏参拝
- 三月十七日 責任役員会
- 三月二十六日、二十七日 シャンシャン馬道中唄全国大会 予選、決勝(当 神宮儀式殿前広場)開催
- 四月六日 本社本庁参与会へ宮司出向



シャンシャン馬道中唄全国大会

暑中お見舞い

申し上げます

代表役員

佐師 朝規

崇敬者総代

黒木 被七

氏子総代会長

川越 国雄

秋森 万次

氏子総代

長谷川裕師

川添 三義

氏子総代

鬼束 達朗

川越 年秋

氏子総代

蛇原 義勝

谷 雅夫

氏子総代

津田 宗治

坂元 忠男

氏子総代

水口 行光

門川 校雄

氏子総代

江口 義雄

古沢 家光

氏子総代

鈴木 直嗣

佐師 朝規

氏子総代

平下 与平

三輪 吉治

氏子総代

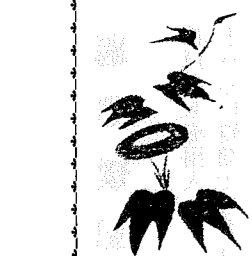
品原 和男

永友 謙二

氏子総代

増竹 義也

佐藤 信明



- 主典 河野 博文
- 出仕 伊東 健治
- 巫子 丹生 貴士
- 淵田 賢二
- 平下 砂代里
- 田代 智津子
- 阿部 栄子
- 岩切 一子
- 谷脇 ルミ
- 佐藤 富子
- 古澤 みどり
- 嶋岡 ひろみ
- 鈴木 直美
- 井上 和子
- 藤浦 智恵子
- 川畑 安盛
- 杉原 与市
- 育田 時芳
- 平下 修三
- 湯浅 好一
- 浜元 隆男
- 鬼束 忠一
- 宮本 ツヤ子
- 水元 イチ子
- 安部 照子

第二回シヤンシヤン馬道中唄 全国大会を開催

第二回シヤンシヤン馬道中唄全国大会が去る三月二十六・七日の二日間、日南市総合運動公園内、多目的体育館で予選、当神宮儀式殿前広場で決勝戦が開催された。

予選には、前大会で好評を博したのが幸いしたのか会場には九州各県はもとより、大阪、奈良などから四百名余りが参加し、二十六日午前十時より、川越光明名誉会長が挨拶を述べた後宮崎県民謡会の奈須会長が同唄を披露した。このあと二会場に分け、一般・成年・少年の各部に分かれて、各自、日頃錬磨した自慢の喉を競い各予選会場では、熱戦が繰り広げられた。又昼食時には、舞踊などが催され大会を盛り上げた。

会場には、予選を勝ち進んだ四十名余りが各部日本一を目指し、「ここ一番」とばかりに太鼓や三味線の軽快なリズムに乗り熱唱し終るたびに大きな拍手と歓声が神苑に湧き上った。

又会場には、シヤンシヤン馬道中を再現する会主催の「シヤンシヤン馬道中鵜戸詣五組」が、昔ながらに再現され同大会に華を添え大会を盛り上げた。この日の参拝者は三千人を越え春一番の日南海岸を目と耳で感じていた。

尚大会の結果は次の通りである。

- 「少年の部」
 - ①倉尾奈穂美 (南郷町)
 - ②八阪 絃光 (熊本県)
 - ③柏木 由美 (宮崎市)
- 「成年の部」
 - ①矢野 一代 (日南市)
 - ②倉尾由美子 (南郷町)
 - ③吉嶺志津子 (宮崎市)
- 「一般の部」
 - ①矢野インエ (日南市)
 - ②小淵 安子 (宮崎市)

③吉嶺志津子 (宮崎市) 特別賞として各部から五名が選ばれた。

又、今回の新婚五組の中には、イギリス人の花嫁の姿が見え、少し緊張きみではありましたが、異国の情緒を満喫していた。

古式の鵜戸詣姿を再現した方々は、本田昌浩・美穂さん (熊本県)、三井照明・貴江さん (川南町)、黒田宣広・順子さん (大阪府)、小川誠・美代さん (愛知県)、小西丹・アマンダさん (東京都) でした。

いさみ太鼓奉納

五月五日 (端午の節句) に恒例の「いさみ太鼓」が本殿前に於いて、五十名の子供等が白い鉢巻きに法被姿で元氣よく奉納し、鵜戸の大神様と祖先の御恩に感謝致し、あわせて健康無病息災を祈願した。

又、幼児も、かわいい法被姿で鈴を手に愛嬌たっぷり、訪れた参拝者の心を弾ませていた。

佐師宮司

神職身分

「一級」に昇進

当神宮の佐師宮司は、去る三月五日付を以て、階位「浄階」、神職身分「一級」に昇進されました。

これは、佐師宮司が永きにわたり、神明奉仕に務め国の隆昌と神社界の発展に尽力された功績が認められたことであり、当神宮と致しまして、大へん光榮な事でありませう。

辞令

・昇進
鵜戸神宮宮司 佐師朝規
神職身分一級とする。浄階ヲ授ク。

・退職
鵜戸神宮禰宜 尾方一郎
熊本県阿蘇神社へ転出
神社本庁 (五月十五日付)
・昇進
鵜戸神宮権禰宜 谷口正史
鵜戸神宮禰宜に任ずる
神社本庁 (五月二十日付)

編集後記

鵜戸山も梅雨入りし、うとうしい時期ではあります。季節がら仕方ありません。

皆様方がお過ごしでしょうか。

ここに社報第二十六号をお届け致します。

昨年十月大雨と台風十九号による影響は、幸いにも当宮には無かったのですが、主要道路国道220号線に土砂崩れが発生し、七〇トンの巨石が落下し当神宮を挟み左右の国道が全面交通止めとなりました。作業が難航する中、幸いにも年末には開通し、初詣にはあまり影響がありませんでした。

尚、被害に際しましては御見舞の手紙等多数頂き、又観光シーズンに重なり参拝者の方々にも、御迷惑お掛け致しました事を、この紙面にて御礼傍御詫び申し上げます。

○天皇陛下のご病氣も良くなり、本年は米寿のお祝いを迎えられました。

謹んで御健康御長寿をご祈念申し上げます。(丹生)